

映像符号化方式	H.261	約40kbpsから2Mbpsまでの範囲で使用されるビデオ信号の符号化方式。画像解像度としてCIF, 4CIF, QCIFを採用し、フレームレートとして30fps、15fps、7.5fpsを採用している。
	H.263	H.261を改良した映像プロトコル。SQCIF, iCIF, SIF, iSIF, 4SIF, VGA, SVGA, XGAも利用できるようになった。
	H.264	H.263を改良した映像符号化。H.263@768kbpsの画質を、H.264@384kbpsで達成することを目的に開発された。テレビ会議のほかには、放送（ワンセグを含む）、DVD、PSP(SonyのPlayStation Portable)、YouTubeに代表されるインターネット動画共有などで広く使われている。
	H.264 SVC	最新の映像標準。SVCは、Scalable Video Codingの略で、直訳すると「拡張映像符号化」。映像データを「高信頼性チャンネル」と「低信頼性チャンネル」の二つに分け、チャンネルの情報に優先順位をつけることで、テレビ会議を行うのに必要最低限のデータを「高信頼性チャンネル」で送り、より高い品質の再生を行うためのデータを「低信頼性チャンネル」で送信する。 H.264ハイプロファイル：通常の通信帯域の約半分の帯域で同じ映像品質を再現する規格。
音声符号化方式	G.711	周波数帯は300Hz～3.4kHzで、電話と同程度の音質。伝送レートは64kbps。
	G.728	音声帯域が3.4kHz、伝送レートが16kbps。音質は、電話と同程度である。
	G.722	周波数帯は7kHzで、かなり自然な音質。伝送レートは64kbps。
	G.719	フルバンド音声圧縮コーデック。音声帯域20kHzで、通信速度はモノラルの場合32～128kbps、ステレオの場合64～256kbps。
	AAC	MP3を超える圧縮率を目指して標準化された音声圧縮方式。映像圧縮規格MPEG-2またはMPEG-4で使われており、デジタルオーディオプレイヤーや携帯機器、地上デジタル放送、BSデジタル放送などに採用されている。
映像フォーマット	フォーマット名	
	解像度	
	SIF	352×240
	CIF	352×288
	wCIF	512×288
	4SIF	704×480
	4CIF	704×576
	W448p	768×448
	W576p	1024×576
	720p	1280×720
1080p	1920×1080	



[A~K]

BRI	Basic Rate Interface. 直訳すると「基本帯域インターフェイス」。ISDNのサービスを受けるための網アクセス形態のひとつ。Bチャネル×2本+Dチャネル×1本(合計2x64kbps+16kbps=144kbps)で構成される。
bps	bit per second. 直訳すると「1秒あたりのビット数」。デジタル通信速度の単位で、大きければ大きいほど高速である。kbpsは1000bpsになるが、k(小文字)のときは1000で割ったもの、K(大文字)のときは1024で割ったものになり、数値が異なるので注意が必要。ちなみに小文字のbだと「ビット"bit"」だが、大文字のBだと「バイト"byte"」=「8bit」の意になる。
D-Sub15端子	テレビ会議システムからPCモニター/プロジェクトに、あるいはPCからテレビ会議システムに、アナログRGB信号を伝えるために使われる端子の名前。
DVI	デジタルディスプレイ用の端子。RGB信号をデジタルのまま送ることができるのが特長(デジタルRGB)で、HD対応のテレビ会議システムに用いられる。
E.164	ITU-Tによる国際公衆電気通信番号の勧告。最大15桁の範囲で、世界中の電話番号を重複しないように管理できる規格。テレビ会議ではIPアドレスの代わりに短縮番号を割り振って利用できるようになる。
fps	frame per second. フレームレートの単位で毎秒何枚のフレームを表示するかを示す。
Gatekeeper	ゲートキーパー。H.323ネットワーク上の端末(ターミナルとも呼ぶ)を管理する。登録されていない機器の接続を拒否する、文字通り「門番」の機能、およびE.164エリアスに基づく接続で、相手の行き先を教える道案内内人の機能がある。H.323通信における認証、アドレス変換、帯域制御、課金管理などを行なう機能を持ち、H.323通信の中では中心的な役割を担う。PCにインストールするソフトウェア型のものと、あらかじめ専用の筐体(あるいはボード)に入っているハードウェア型のものがある。
Gateway	ゲートウェイ。プロトコルが異なるものを接続できるようにするための仕組み。テレビ会議では狭義でH.320のISDN網とH.323のIP網の相互接続を可能にする専用の装置のことを指す。ゲートウェイは、異なる言語を話す人々の間で会話するときの通訳に相当する役割を果たし、H.320端末からはあたかもH.320端末に見え、またH.323端末からはあたかもH.323端末に見える。
H.323	LANやインターネットなどのIPベースのネットワーク上で、音声、ビデオ、データといった通信基盤を提供する国際標準規格。H.323準拠のテレビ会議システムは、相互接続試験などを経て、異なるベンダーの製品間であっても接続性が確保されている。
H.320	ISDNを対象に、テレビ電話・会議端末のための国際標準規格。H.320に準拠したテレビ会議システムであれば、他メーカーのものとも基本的には通信が可能である。
H.460	H.323システムにおいて長く懸案であったNAT/ファイウォール越え問題を解決するため、H.460.18はシグナリングのNAT/ファイウォール越えを、H.460.19はメディア信号のNAT/ファイウォール越えを規定している。
H.239	テレビ会議で、2つ以上の映像を同時に送受信するためのプロトコル。資料共有時に用いられる用語。
HDMI	High-Definition Multimedia Interface(高精細マルチメディアインターフェイス)の略で、映像だけではなく音声や制御信号も同時に送ることができるデジタルインターフェイスの規格。
kbps	「キロ・ビット/秒」の省略表記。データ伝送速度の単位として用いられる。1 kbpsは、1秒間に1,000ビット転送することができる。

[L~Z]

MCU	Multipoint Control Unit. 別名「多地点接続装置」。テレビ会議において、3地点間以上を接続して行う多地点間テレビ会議を実現させる多地点制御装置。アプライアンスサーバタイプの物以外にテレビ会議専用端末にソフトウェアとして「内蔵多地点(MCU)接続オプション」提供もされている。
MPEG	国際標準化機関の一つであるISO/IEC JTC1傘下の専門家グループSC29/WG11のグループ名で、このグループは音声、映像とそれを組み合わせたマルチメディア情報の符号化に関する標準化を行っている。成果物である標準にもMPEGの呼称が使われ、これまでにMPEG-1、MPEG-2、MPEG-4、MPEG-7、MPEG-21ほかが策定された。
NAT	Network Address Translation. インターネットと社内などのプライベートネットワークを結び働きをする。NATは、アドレスの対応関係が固定しているスタティック(静的)NATと、通信の都度変化するダイナミック(動的)NATに分かれる。NATの使用により、限られたIPアドレス数を実質的に拡張することができる。また通常NATの外から内側にはアクセスできないことから、プライベートネットワークを外からの侵入に対し護ることができる。
Packet	パケット。アプリケーションから渡された通信データにアドレスを付けてネットワークへ転送するときのひとかたまりのデータ。データをパケットに分割することで、ひとつのパイプにさまざまなパケットを同時に流すことができるようになったので、通信コストを安くすることができる。テレビ会議の場合、映像と音声リアルタイムで相手方と送受信できないといけないが、IPネットワークを利用する場合、そのデータがパケットに切り刻まれてしまうので、技術的にはリアルタイム性を確保するのが難しかった。IPでのテレビ会議の歴史が浅いのはこのため。
SIP	Session Initiation Protocol. テレビ会議や電話をIPで行うための呼制御プロトコルのひとつ。H.323とは互換性がない。
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol. ネットワークプロトコルのひとつで、現在ではコンピュータ通信における支配的標準。UNIXワークステーションおよびインターネットにおける標準プロトコル。
WebRTC	ブラウザの上で展開するリアルタイム通信の仕組みで、ブラウザにHTML5を実装することにより、リアルタイム通信の機能が埋め込まれる。これにより、標準準拠のブラウザを搭載したPCあるいはその他の装置間で、電話やテレビ会議のようなリアルタイム通信が相互接続可能になる。
エコーキャンセラー	スピーカーから出る相手の音声自分が自分側のマイクに入り込み、それを相手側に送り返してしまうとエコーとなる。このエコーが強くなるといにはハウリングが発生する。これを防ぐために、マイクに入り込んだ相手の音声を擬似した信号を合成し、相手に送る音声信号から差し引いてエコーを減衰させる機能のことをさす。
ノイズリダクション	会議室などで恒常的に発生する一定レベルの雑音を除去する機能。NRと略されることもある。
オートゲインコントロール	自動音量レベル制御。音源からの距離に応じて変化する音声入力レベルを、自動的に最適音量レベルに調整する機能。遠くの人声もしっかり聞こえる。